この添付文書をよく読んでから使用してください。
また、必要時に読めるように保管しておいてください。

体外診断用医薬品　　** 2021 年 1 月改訂（第 13 版）
　　* 2019 年 10 月改訂（第 12 版）
製造販売届出番号：13A2X00206000109

コバス® システム

クラスⅢ汎用・生化学・免疫・内分泌検査用シリーズ
サイロキシンキット

エクルーシス®試薬 T4 Ⅱ

【全般的な注意】

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
4. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。

【形状・構造等（キットの構成）】

エクルーシス試薬

1. T_4 Ⅱ
   構成試薬/キャップの色
   MP 液(M)/無色
   ストレプトアビジンコーティング磁性マイクロパーティクル
   (SA 磁性 MP)
   試液 1(R1)/灰色
   トリス(2,2'-ビピリジル)ルテニウム(Ⅱ)標識抗サイロキシンヒツジポリクローナル抗体
   ($Ru(bpy)_3$ 標識抗 T_4 抗体)
   試液 2(R2)/黒
   ビオチン化サイロキシン
   (ビオチン化 T_4)
2. プロセル（別売）
   構成試薬/キャップの色
   プロセル/白
   トリプロピルアミン

注意）1. 2. は組み合わせて使用してください。

【使用目的】

血清又は血漿中のサイロキシン（T_4）の測定

【測定原理】

本キットは、血清又は血漿中のサイロキシン（T_4）を測定するもので、電気化学発光免疫測定法(ECLIA 法)を測定原理としています [1)]。第 1 反応として検体及びトリス(2,2'-ビピリジル)ルテニウム(Ⅱ)標識抗サイロキシンヒツジポリクローナル抗体（$Ru(bpy)_3$ 標識抗 T_4 抗体）を加えインキュベーションします。このとき測定検体中の T_4 は 8-アニリノ-1-ナフタレンスルホン酸(ANS)の存在下で結合たん白から遊離し、$Ru(bpy)_3$ 標識抗 T_4 抗体が結合します。第 2 反応としてビオチン化サイロキシン（ビオチン化 T_4）及びストレプトアビジンコーティング磁性マイクロパーティクル（SA 磁性 MP）を加えインキュベーションします。反応混合液を測定セルに吸引し、磁力により SA 磁性 MP を電極に引き付けます。次にトリプロピルアミンを吸引し、未反応物を除去します(B/F 分離)。SA 磁性 MP に結合している $Ru(bpy)_3$ 標識抗 T_4 抗体の $Ru(bpy)_3$ は、電極への荷電による酸化と、トリプロピルアミンでの還元反応により励起発光を繰り返すので、所定時間での発光強度を光電子増倍管で測定します。同様の操作をしたキャリブレータの発光強度から、検体中の T_4 濃度を算出します。

***【操作上の注意】

1. **測定試料の性質・採取法**
   測定試料：血清又は血漿（ヘパリン、EDTA）
   測定試料の安定性：
   20～25℃で 4 日間、
   2～8℃で 8 日間、
   -20℃(±5℃)で 12 ヵ月安定
   (凍結融解は 1 回のみ)
   採血管の種類によっては、測定結果に影響を及ぼす場合がありますので使用する採血管の製造元の指示に従ってください。
   沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。また、加熱した検体は使用しないでください。
   アジ化ナトリウムを含有する検体やコントロールは、測定に使用しないでください。
   蒸発による測定への影響を回避するため、機器に設置した検体、キャリブレータ、コントロールは 2 時間以内に測定してください。
2. **妨害物質・妨害薬剤**
   (1) 下表に示す物質が本品の測定に与える影響を確認したところ、下表の各濃度までは測定に与える影響は以下の範囲内でした。
   T_4 濃度≦3.5 nmol/L の検体：5.4～35 nmol/L 以内
   T_4 濃度＞3.5 nmol/L の検体：10%以内

物質	濃度
溶血（ヘモグロビン）	2,300 mg/dL
黄疸（ビリルビン）	37 mg/dL
乳ビ（イントラリピッド）	2,500 mg/dL
リウマチ因子	2,400 IU/mL
ビオチン(ビタミン B_7)	1,200 ng/mL

   (2) 透析患者からの検体は測定に影響はありません。
   (3) D-T_4 を含む脂質降下剤で治療中の患者検体は、T_4 の測定値が高くなります。
   (4) 17 種の一般的な治療薬についての影響を In-vitro 試験で確認したところ、影響は認められませんでした。
   (5) 下表に示す薬剤について、本品の測定に与える影響を In-vitro 試験で確認したところ、以下の濃度まで測定に与える影響は認められませんでした。

薬剤	添加濃度
Iodide	0.2 mg/mL
Carbimazole	30 mg/mL
Methimazole	48 mg/mL
Propylthiouracil	300 mg/mL
Perchlorate	2,000 mg/mL
Propranolol	240 mg/mL
Amiodarone	40 mg/mL
Prednisolone	100 mg/mL
Hydrocortisone	200 mg/mL
Fluocortolone	100 mg/mL
Octreotide	0.3 mg/mL
Liothyronine	0.015 mg/mL

   (6) 薬剤の影響については、CLSI ガイドライン EP07、EP37 等に基づいて確認されました。
   (7) FDH(家族性異常アルブミン性高サイロキシン血症)で見られる結合たん白質の異常は、測定結果に影響を与える場合があります。
   (8) 甲状腺ホルモンに対する自己抗体は、測定結果に影響を与える場合があります。
   (9) イムノアッセイでは、非特異反応物質が存在した場合、得られた結果に対して、非特異的反応を完全に否定できない場合があります。

(10) T_4濃度約 70 nmol/L 及び 160 nmol/L の検体で検討した交差反応物質との交差反応率は以下のとおりでした。

物質	交差反応率
L-T3	影響なし
T3	影響なし
3-iodo-L-tyrosine	影響なし
3,5-diiodo-L-tyrosine	0.004%
3,3',5,5'-tetraiodothyroaceticacid	31.5%
rT3	3.6%
3,3',5-triiodothyroacetic acid	影響なし

3. **その他**

本試薬は以下の機器に適用できます。

卓上型機器	コバス e 411 など
据置型機器	コバス 6000(免疫処理用 e601 モジュール) コバス 8000(免疫処理用 e602 モジュール) など

そのほかの適用可能な機器については弊社までお問い合わせください。

**【用法・用量(操作方法)】

1. **試薬の調製方法**

すべての試薬はそのままご使用ください。

2. **試薬の安定性**

エクルーシス試薬

(1) **T_4Ⅱ**

未開封時:2～8℃で使用期限まで安定
開封後:2～8℃で 12 週間安定
(使用を開始してからの安定性)
機器上:8 週間安定

(2) **プロセル(別売)**

未開封時:15～25℃で使用期限まで安定
機器上:

① **エクルーシス試薬 プロセルの場合**
キャップを開けた状態で 3 日間、
キャップを閉めた状態で 4 週間安定

② **エクルーシス試薬 プロセル M の場合**
5 日間安定

3. **別途必要な器具・器材・試薬**

・コバス 6000(免疫処理用 e601 モジュール)、コバス 8000(免疫処理用 e602 モジュール)など、そのほかの適用可能な機器については弊社までお問い合わせください。
・エクルーシス T_4Ⅱ キャリブレータ
・エクルーシス プレチコントロール
・エクルーシス クリーンセル
・エクルーシス シスウォッシュ
・エクルーシス 2010 分注チップ
・エクルーシス 2010 アッセイカップ
・エクルーシス 2010 クリーンライナー
・エクルーシス クリーンセル M
・エクルーシス プレクリーン M
・エクルーシス プローブウォッシュ M
・エクルーシス アッセイカップ/チップ M
・エクルーシス クリーンライナー M
・エクルーシス PC/CC カップ M

使用方法は、各製品の添付文書又は取扱説明書をご参照ください。また、機種により使用する製品が異なりますので、ご不明な点などがございましたら弊社までお問い合わせください。

4. **操作方法**

(1) **測定準備**

エクルーシス試薬

① **T_4Ⅱ**

(a) **機器への試薬パックの設置**

機器の試薬ディスクの空いているポジションに試薬パックをセットします。
使用する前日に機器にセットすることをお勧めします。
試薬は泡立てないでください。
キャップの開閉は、機器が自動的に行います。
使用後は、そのまま機器の試薬ディスク内に保存してください。

(b) **機器への測定試料の設置**

所定の位置に検体をセットします。
機器への設置方法の詳細は、機器の取扱説明書を参照してください。

(c) **キャリブレーション**

本試薬に使用するマスターキャリブレーションデータは試薬パック、並びにキャリブレータの 2D バーコード、バーコードカード、バーコードシート及び電子配信されるキャリブレーション情報に記録されています。マスターキャリブレーションデータを各機器の状態に適合させるために、キャリブレーションを行います。
このキャリブレーションには、エクルーシス T_4Ⅱ キャリブレータ(別売)を使用します。

ア) 新しいロットの試薬を使用する場合、機器に設置してから 24 時間以内の新しい試薬パックを用いて、必ずキャリブレーションを行ってください。このキャリブレーションデータが、同一ロットの試薬パックに使用されるキャリブレーション(L-Cal)として、機器に記録されます。

イ) 推奨するキャリブレーションの測定・更新頻度は、以下のとおりです。しかしながら、精度管理などで必要が生じた場合は、必ずキャリブレーションを行ってください。
1 つの試薬パックを 7 日間で使いきる場合:
上記 L-Cal は、8 週間有効です。この間キャリブレーションは不要です。ただし同一ロット内でも、8 週間に 1 度 L-Cal を更新してください。
1 つの試薬パックを 7 日間を超えて使用する場合:
7 日間に 1 度その試薬パックでキャリブレーションしてください。その際のキャリブレーションデータは、その試薬パックにのみ有効なキャリブレーション(R-Cal)として、機器に記録されます。

エクルーシス T_4Ⅱ キャリブレータ(別売)の包装、使用方法、安定性などは、キャリブレータ添付文書をご参照ください。
キャリブレーション実施後は、必ずコントロール試料を測定し、精度管理を行ってから検体測定を行ってください。

② **プロセル(別売)**

機器への設置方法の詳細は、機器の取扱説明書を参照してください。

(a) **エクルーシス試薬 プロセル/プロセル M 共通**

測定する 1 時間以上前に、機器に設置します(泡立てないでください)。

(b) **エクルーシス試薬 プロセルをご使用の場合**

以下の点にご留意ください。
測定前にキャップを開けます。
測定後、あるいは 3 時間以上使用しない場合は、キャップを閉めます。

(2) **測定(バックタイトレーション法)**

① 第 1 反応:検体及び試液 1(Ru(bpy)$_3$ 標識抗 T_4 抗体)を加え反応させます。

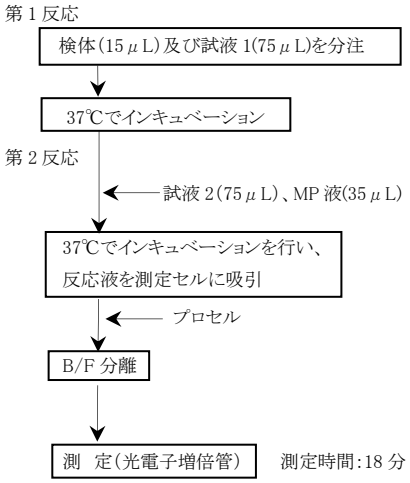
② 第 2 反応:試液 2(ビオチン化 T_4)及び MP 液(SA 磁性 MP)を加え反応させます。

③ 反応混合液を測定セルに吸引し、磁力により SA 磁性 MP を電極に引き付けます。

④ プロセル(トリプロピルアミン)を吸引し、未反応物を除去します(B/F 分離)。
SA 磁性 MP に結合している Ru(bpy)$_3$ 標識抗 T_4 抗体の Ru(bpy)$_3$ は、電極への荷電による酸化と、トリプロピルアミンでの還元反応により励起発光を繰り返すので、所定時間での発光強度を光電子増倍管で測定します。

⑤ 同様の操作をしたキャリブレータの発光強度から、検体中の T_4 濃度を算出します。

例) 操作概略(コバス e 411 の場合)



5. **精度管理**

精度管理には、エクルーシス プレチコントロール U(別売)をご使用ください。

精度管理は少なくとも 24 時間に 1 回の実施を推奨しています。

コントロールの測定値が許容範囲内にあることを確認してから検体測定を行ってください。

【測定結果の判定法】

1. **測定結果の判定及び参考基準範囲**

弊社集計結果並びに国内検討結果は以下のとおりです。

n	参考基準範囲	主要文献
838	6.10～12.4μg/dL (ノンパラメトリック法による 95%範囲)	2)
2,526	5.1～14.1μg/dL (2.5～97.5 パーセンタイル)	3)
238	6.3～12.4μg/dL (パラメトリック法)	4)

基準範囲は、測定試料、測定条件、基準個体などにより異なる場合がありますので、各施設で臨床医と相談の上、設定してください。

2. **検体の希釈**

測定範囲を広く設定しているため、希釈は不要です。

**【性能】

1. **性能**

【用法・用量(操作方法)】の記載に従い、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

(1) **感度試験**

① サイロキシン濃度 30～70 nmol/L の標準液を試料として操作するとき、発光強度は 260,000～550,000 Counts の範囲内にあります。

② サイロキシン濃度 120～280 nmol/L の標準液を試料として操作するとき、発光強度は 90,000～250,000 Counts の範囲内にあります。

(2) **正確性試験**

既知濃度の管理用試料を測定するとき、既知濃度の±15%以内にあります。

(3) **同時再現性試験**

同一管理用試料を 3 回同時に測定するとき、測定値の CV 値は 10%以下です。

(4) **測定範囲**

0.42～24.86μg/dL

(5) **測定下限値**

LoB : 0.388μg/dL
LoD : 0.420μg/dL
LoQ : 1.17μg/dL
CLSI ガイドライン EP17-A2[5]に従って、ブランク上限(LoB)、検出限界(LoD)、定量限界(LoQ)を算出しました。

2. **相関性試験成績**

(1) 本品と既存製品との相関性を検討したところ、172 例の血清検体において良好な相関性が得られました[3]。
相関係数 r=0.997
回帰式 y=1.037x - 0.186
y:本品 x:既存製品

(2) 血清検体と血漿検体との相関性を検討したところ、99 例の検体において良好な相関性が得られました[3]。
相関係数 r=0.963
回帰式 y=0.946x + 0.0816
y:血漿検体 x:血清検体

3. **較正用の基準物質**

USP(米国薬局方(United States Pharmacopeia)にトレーサビリティを有しています。

**【使用上又は取扱い上の注意】

1. **取扱い上(危険防止)の注意**

(1) 検体及び本品の取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。

(2) 試薬が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。

(3) 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流してください。

(4) 試薬をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。

(5) 検体をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(6) 検体及び本品を取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。

(7) 検体は HIV、HBV、HCV などのウイルスによる感染の危険性があるものとして取り扱い、検体又は検査に使用した器具類は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃で 20 分間以上加熱滅菌処理をするか、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)に 1 時間以上浸すなどにより消毒してください。これらの作業中は、じゅうぶんに換気を行ってください。

(8) 本品にはアレルギー反応を起こすおそれがある 2-メチルイソチアゾール-3(2H)-オン・塩酸塩が含まれていますので、取扱いにはじゅうぶんに注意してください。

0479925900 1-M

2. 使用上の注意

(1) 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。

(2) 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

(3) ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。

(4) 試薬パックは使用する前に、恒温槽(Water bath など)に浸けたりしないでください。

(5) バーコードをぬらしたり、ペンで記入するなどして汚したりしないでください。

(6) 測定の前はすべての試薬と測定試料中の気泡の有無を確認してください。気泡がある場合は除いてください。

(7) すべての試薬は保存又は反応中に強い光を当てないでください。

(8) すべての試薬は開封又は分注時に微生物の汚染を避けてください。

(9) 測定系及び洗浄液の調製には必ず精製水を使用し、水道水は用いないでください。

(10) 検体は使用前に 20～25℃に戻し、よく混和してください。ただし、激しく振り混ぜたり、泡立てたりしないでください。

(11) 本品を保存する際は、キャップの裏に試薬を付けないように、垂直の状態で保存してください。

(12) 本品を使用する際は、キャップの裏に試薬を付けないように、垂直の状態で使用してください。

(13) 構成試薬のうちプロセルは、個別に包装されていますので、組み合わせて使用してください。

3. 廃棄上の注意

(1) 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。

(2) 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。

(3) 廃棄の際に、検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(4) 検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(5) プロセル(別売)を原液のまま廃棄する場合は、強アルカリ溶液(エクルーシス クリーンセル)と混合しないでください。

4. その他の注意

本品による測定値は既存製品と高い相関性を示しますが、系統的な誤差を生じる場合がありますので、必要に応じて相関性について検討されることをお勧めします。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法

エクルーシス試薬

(1) T_4Ⅱ

2～8℃で保存してください(凍結は避けてください)。

製品を倒さないでください。

(2) プロセル(別売)

15～25℃で保存してください(凍結は避けてください)。

製品を倒さないでください。

2. 有効期間

エクルーシス試薬

(1) T_4Ⅱ

21 ヵ月

使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

(2) プロセル(別売)

24 ヵ月

使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

【包装単位】

エクルーシス試薬 T_4Ⅱ	**200 テスト**
MP液(M)	1×12 mL
試液 1 (R1)	1×18 mL
試液 2 (R2)	1×18 mL
エクルーシス試薬 T_4Ⅱ	**5×200 テスト**
MP液(M)	1×12 mL×5
試液 1 (R1)	1×18 mL×5
試液 2 (R2)	1×18 mL×5
エクルーシス試薬 プロセル(別売)※	
プロセル	6×380 mL
エクルーシス試薬 プロセル M(別売)※	
プロセル	1×2L 又は 2×2L

※ 使用する機器に合わせてエクルーシス試薬 プロセル又はエクルーシス試薬 プロセル M をご使用ください。ご不明な点などがございましたら弊社までお問い合わせください。

【主要文献】

1) Blackburn, G.F. et al. Electrochemiluminescence Detection for Development of Immunoassays and DNA Probe Assays for Clinical Diagnostics. Clin.Chem. 1991, 37, p.1,534～1,539.

2) 楚南 盛正ほか. 電気化学発光免疫測定装置「Modular Analytics〈EE〉」を用いた TSH および甲状腺ホルモン測定法の基礎的, 臨床的検討. 医学と薬学. 2001, 46(5), p.759～771.

3) 自社データ

4) 高木 康ほか. エクルーシスによる血清微量物質基準値の検討－第 1 報甲状腺ホルモン－. 臨床検査機器・試薬. 2000, 23(4), p.265～271.

5) Clinical and Laboratory Standards Institute. Evaluation of Detection Capability for Clinical Laboratory Measurement Procedures. CLSI Document EP17-A2. Wayne, PA: CLSI; 2012.

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

カスタマーソリューションセンター

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

COBAS is a trademark of Roche.

コバス及びエクルーシスは Roche の商標です。

04799259001-M